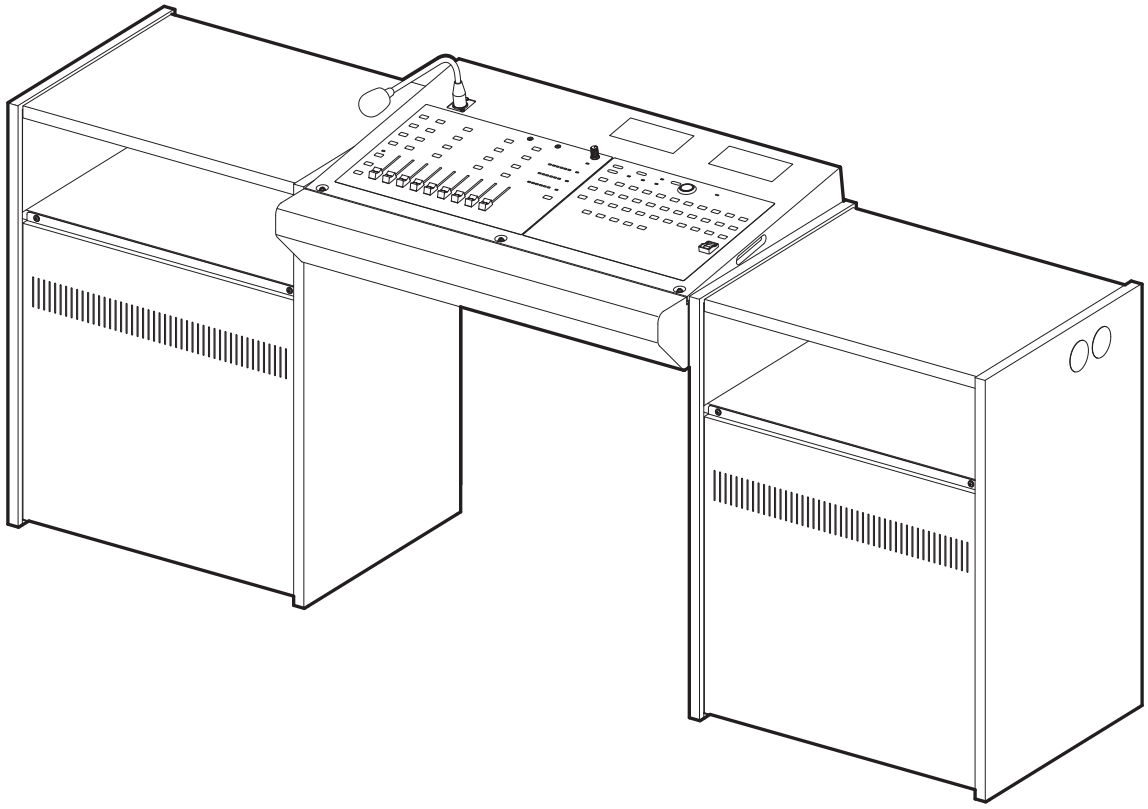
JVC

取扱説明書

デスク型音響装置

PAM-100 シリーズ



※イラストは、デスク型音響装置 PAM-133 とサイドキャビネット PAM-100C（2 台）を組み合わせた場合のものです。

お買い上げありがとうございます。
ご使用の前にこの**「取扱説明書」**と別冊の**「安全上のご注意」**をお読みのうえ、正しくお使いください。
特に**「安全上のご注意」**は必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。
製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。
（製造番号の記載位置については、30 ページの外形寸法図をご覧ください。）

LST1314-001A

はじめに

このシリーズの特長

● **教育現場向けの放送用設備**
学校の放送室やスタジオなどに設置し、音声放送を行うデスク型音響装置です。
朝礼や下校時などの情報伝達のほか、「放送クラブ」活動などで教材としてもご活用いただけます。

● **「かんたん選択」機能**
朝礼や昼休み、下校時の放送など、用途に合わせた放送場所をボタンひとつで選択できます。（設置時に、あらかじめ設定が必要です。）

● **わかりやすい操作パネル**
よく使用する電源スイッチ、［かんたん選択］ボタン、音量調節つまみを、操作パネルの手前に直線的にレイアウトしています。アイコンによる表示と合わせて、直感的に操作できます。
また、LED 自照式の［放送場所選択］ボタンにより、選択されている放送場所を見やすく表示します。

● **使いやすい入力端子**
操作パネル上に入力端子を装備しています。(PAM-111/PAM-112/PAM-113 は 1 入力、PAM-133 は 2 入力)
ラジカセや携帯音楽プレーヤーなどを接続して、放送を行うことができます。

● **4 音チャイム内蔵**
アナウンス放送の前後に 4 音のチャイム音（上り／下り）を放送することができます。

● **緊急優先一斉放送**
緊急時に、通常の放送より優先される緊急優先一斉放送を、ボタンひとつで行うことができます。また、緊急地震速報ユニットなどを接続することにより、緊急時の自動放送を行うことができます。

● **リモコン放送**
リモートマイクロホン（PA-C50 シリーズ）を最大 4 台まで接続することができます。リモートマイクロホンを使用することで、本機と離れた場所から放送できます。

● **停電放送に対応**
非常用電源ユニット（EM-N112）と蓄電池を使用することにより、停電時にも放送を行うことができます。
（停電時には、本機の AC アウトレットから電源を供給している音源機器を動作させることはできません。）

● **PAM-100 シリーズの構成**

型名	品名	備考
PAM-111	デスク型音響装置	1 系統 10 回線モデル
PAM-112	デスク型音響装置	1 系統 20 回線モデル
PAM-113	デスク型音響装置	1 系統 30 回線モデル
PAM-133	デスク型音響装置	3 系統 30 回線モデル
PAM-100C	サイドキャビネット	
PAM-100F	サイドフット	

もくじ

はじめに

このシリーズの特長 2
安全上のご注意 4
正しくお使いいただくためのご注意 5

各部の名称とはたらき

操作パネル
（PAM-111/PAM-112/PAM-113） 6
操作パネル（PAM-133） 8

操作の前に

放送の優先順位 10
一斉放送 10
かんたん選択 11

放送しよう！

基本的な放送のしかた 12
放送場所の選びかたについて 13
緊急優先一斉放送をする 14
ラジオを放送する 15
系統を選んで放送する（PAM-133 のみ）
..... 16
操作の例 16

こんなこともできます

放送内容を確認する（モニター） 18
PAM-133 をお使いの場合 18
スタジオ内に連絡する（トークバック） 19
録音する 20
リモコンマイクを使う 22

そのほか

こんなときは 24
非常用電源ユニット EM-N112 について
..... 25
EM-N112 の日常点検 25
パワーアンプについて 26
デジタルパワーアンプ 26
アナログパワーアンプ 27
保証とアフターサービス 28
仕様 29
回線設定シート 31

この取扱説明書の見かた

■ 本文中の記号の見かた

ご注意 操作上の注意が書かれています。

メモ 機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。

☞ 参考ページや参照項目を示しています。

■ 本書に掲載のイラスト

● 本書では、主に PAM-112 および PAM-133 のイラストを使用して説明しています。
そのほかの機種ではボタン・つまみ類の数や表示が異なりますが、構成は同じです。
なお、CD などの音源や放送場所のボタンは、お使いの機種の構成に合わせて読みかえてください。

■ 本書の記載内容について

● 本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部、または全部を弊社に無断で転載、複製などを行うことは禁じられています。
● 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では ™、®、© などのマークは省略してあります。

● 本書に記載されたデザイン、仕様、そのほかの内容については、改善のため予告なく変更することがあります。

安全上のご注意

別冊の「安全上のご注意」も合わせてお読みください。

⚠ 警告

組み込みや接続は販売店に依頼する

機器の組み込みや端子盤への接続を誤ると、感電や火災事故の原因となることがあります。

通風孔をふさがない

各機の側面・底面にある通風孔は、内部の熱を逃がす重要な穴です。通風孔をふさぐと、内部に熱がこもり火災や故障の原因となります。

⚠ 注意

本システムの上に物を置かない

重いものや、本システム各機からはみでるような大きなものを置くと、バランスが崩れて倒れたり、落ちたりしてけがの原因となることがあります。

本システムの上に乗らない、ぶら下がらない

倒れたり、壊れたりしてけがの原因となることがあります。特に小さいお子様には注意してください。

本システムの上に水の入ったもの（花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など）を置かない

こぼれたり、機器の内部に入ると、火災、感電の原因となります。

内部に物を入れない

通風孔などから、金属類や燃えやすいものが入ると火災や感電の原因となります。

正しくお使いいただくためのご注意

■ 保管および使用場所

● 次のような場所に置かない

誤動作や故障の原因となります。

- 許容動作温度（0℃～ 40℃）範囲外の暑いところや寒いところ
- 許容動作湿度（30%～ 80%）範囲外の湿気の多いところ
- 変圧器やモーターなど強い磁気を発生するところ
- トランシーバーや携帯電話など電波を発生する機器の近く
- 直射日光のあたるところ
- ほこりや砂の多いところ
- 振動の激しいところ
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすいところ
- 放射線や X 線、および腐食性ガスの発生するところ

■ 取り扱いについて

● 各機器の組み込みや接続は、必ずお買い上げ販売店にご依頼ください。

機器の組み込みや接続を誤ると、感電や火災の原因となることがあります。

■ お手入れについて

● 本システム各機はやわらかい布でふく

機器の汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤を布につけてふき、あとでからぶきしてください。

● シンナーやベンジンなど揮発性のものでふかない

機器の表面が溶けたり、くもったりします。必ず水でうすめた中性洗剤でふいてください。

● ゴムやビニール製品などを機器に長時間接触させたままにしない

プラスチックの中に含まれる“かそ剤”のはたらきにより、変質したり、塗装がはげるなどの原因になります。

■ 点検・調整について

● 機器の内部にさわらない

機器の内部に触れることは、故障や感電の原因となります。日常点検以外の定期点検や調整は設置業者にお任せください。

● アナウンスマイクは抜き差ししない

アナウンスマイクをむやみに抜き差しすると、故障の原因となります。

● 落雷による不具合が発生した場合は、すみやかにお買い上げ販売店、設置業者、またはご相談窓口へご連絡ください。

■ 省エネについて

● 長時間使用しないときは、安全および節電のため、システムの電源を切ってください。

各部の名称とはたらき

操作パネル（PAM-111/PAM-112/PAM-113）

※ イラストは PAM-112 です。機種によって、［放送場所選択］ボタンの数や表示が異なります。

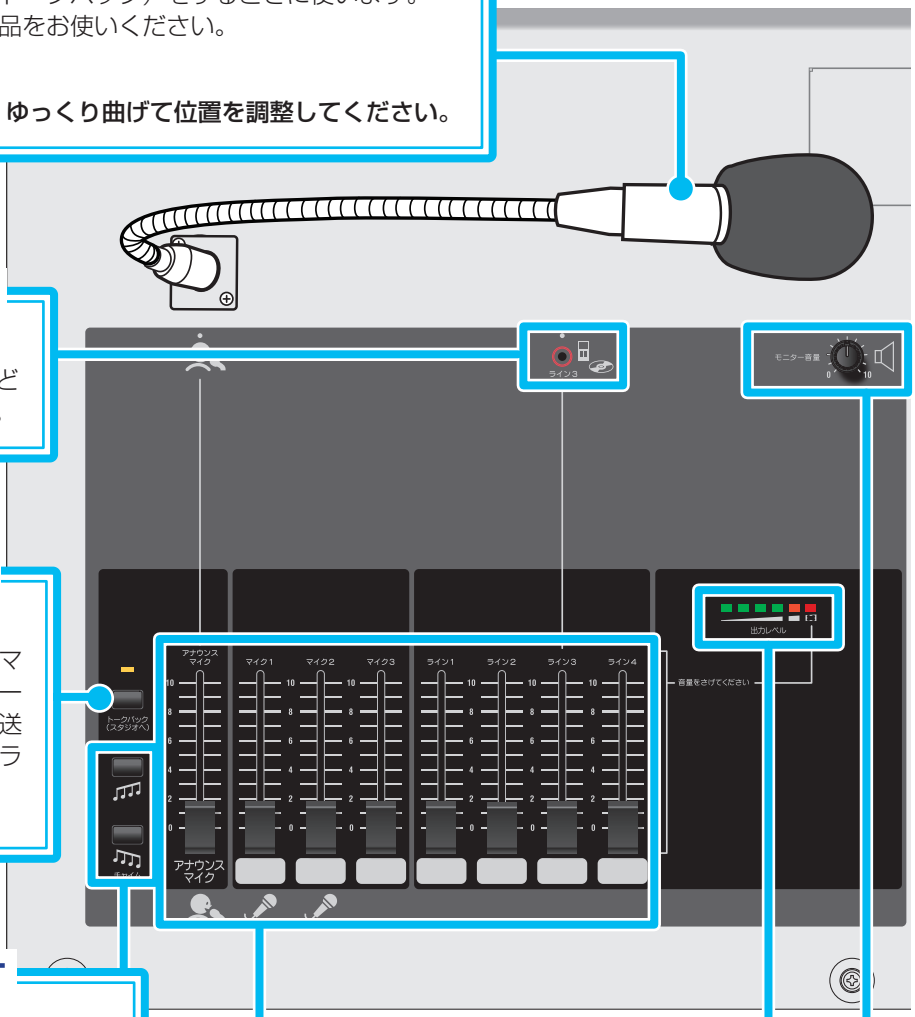
アナウンスマイクで話す

● **アナウンスマイク**

アナウンス放送やスタジオ連絡（トークバック）をするときに使います。
アナウンスマイクは、付属の専用品をお使いください。

ご注意

- **アナウンスマイクは先端を持ち、ゆっくり曲げて位置を調整してください。**



ラジカセなどをつなぐ

● **ライン入力ジャック**

ラジカセや携帯音楽プレーヤーなどの外部機器を一時的に接続します。

スタジオ内に連絡する

● **［トークバック］ボタン**

おしているあいだ、アナウンスマイクの音をスタジオのスピーカー（トークバックスピーカー）に放送します。トークバック中は、上のランプが黄色に点灯します。
（☞ 19 ページ）

チャイムをならす

● **［チャイム］ボタン（上り 4 音・下り 4 音）**

「ピンポンパンポン」という 4 音のチャイムをならします。

♫ : 音階が上がる（上り 4 音）チャイム
♫ : 音階が下がる（下り 4 音）チャイム

音量を調節する

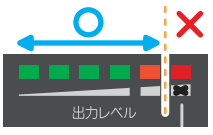
● **音量つまみ**

放送する音の大きさを調節します。

放送の音量を確認する

● **出力レベルメーター**

放送中の音の大きさを表します。
赤が点灯している場合は、音が大きすぎます。放送中の音源の音量つまみを下げて、メーターの赤が点灯しないように調節してください。



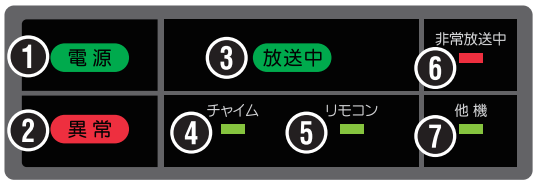
放送内容を確認する

● **モニタースピーカー音量つまみ**

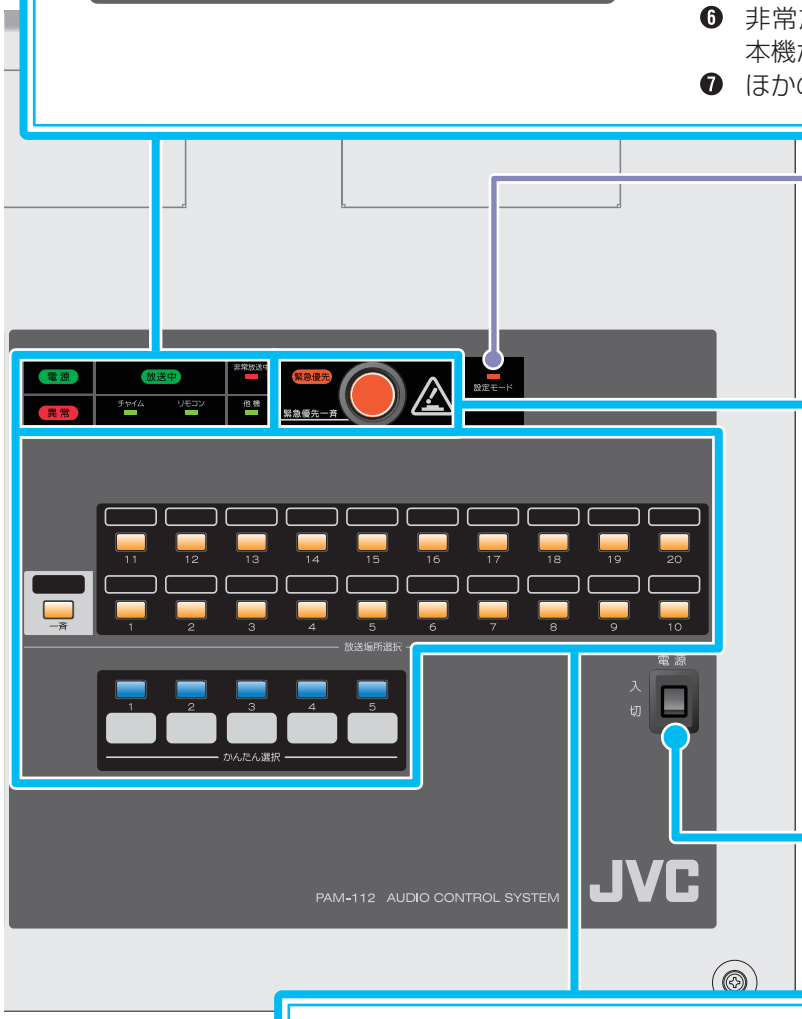
モニタースピーカーの音量を調節します。（☞ 18ページ）

本機の状態、放送の内容を確認する

● 状態表示ランプ



❶ 本機の電源が入っているときに点灯します。
❷ 異常が発生しているときに点灯または点滅します。すぐに電源スイッチを「切」にして、お買い上げ販売店または設置業者にご連絡ください。
❸ 放送中に点灯します。
❹ 報時チャイムをならしているときに点灯します。
❺ リモコンマイクで放送中に点灯します。
❻ 非常放送をしているときに点灯します。このとき、本機からの放送はできません。
❼ ほかの放送設備で放送しているときに点灯します。



本機の設置時に使用します。
通常は消灯しています。点灯している場合は、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

緊急のとき

● ［緊急優先一斉］ボタン

緊急ですべての場所へ同時に放送したいときに使用します。（緊急優先一斉放送）（※）
電源が入っていなくてもおすだけで一斉放送ができます。
緊急優先一斉放送中は、緊急優先ランプが点灯します。
アナウンスマイクは、音量つまみを上げなくても放送できます。（☞ 14ページ）

電源を入れる／切る

● 電源スイッチ

電源の入／切をします。

放送する場所を選ぶ

放送する場所を選びます。選択中の場所はボタンが点灯します（複数選択可）。
各ボタンに設定されている場所は、「回線設定シート」（☞ 31 ページ）をご覧ください。

● ［放送場所選択］ボタン

ボタンをおした場所に放送します。

● ［一斉］ボタン

すべての場所に放送します。（※）

● ［かんたん選択］ボタン

朝礼やそうじのときなど、場面に合わせた放送場所がボタンひとつで選ばれ、放送できます。（※）

※ ［緊急優先一斉］ボタン、［一斉］ボタン、［かんたん選択］ボタンをおして選ぶことのできる放送場所は、あらかじめ設定されています。放送場所の設定については、お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。

操作パネル（PAM-133）

ラジカセなどをつなぐ

● **ライン入力ジャック**

ラジカセや携帯音楽プレーヤーなどの外部機器を一時的に接続します。

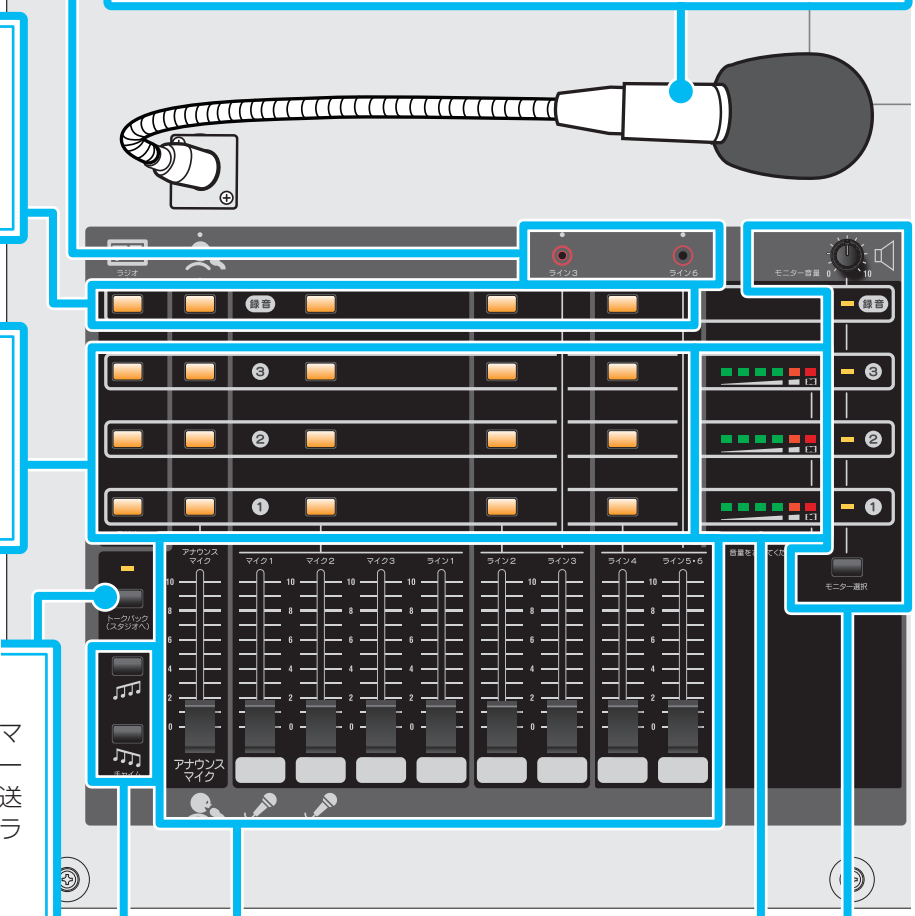
アナウンスマイクで話す

● **アナウンスマイク**

アナウンス放送やスタジオ連絡（トークバック）をするときに使います。アナウンスマイクは、付属の専用品をお使いください。

ご注意

- アナウンスマイクは先端を持ち、ゆっくり曲げて位置を調整してください。



録音する音源を選ぶ

● **録音出力選択ボタン**

録音する音源を選びます。（複数選択可）
選択中の音源は、ボタンが黄色に点灯します。（☞ 20 ページ）

放送系統を選ぶ

● **系統選択ボタン**

放送する音源を選びます。（複数選択可）
選択中の系統は、ボタンが黄色に点灯します。（☞ 16 ページ）

スタジオ内に連絡する

● **［トークバック］ボタン**

おしているあいだ、アナウンスマイクの音をスタジオのスピーカー（トークバックスピーカー）に放送します。トークバック中は、上のランプが黄色に点灯します。
（☞ 19 ページ）

チャイムをならす

● **［チャイム］ボタン（上り４音・下り４音）**

「ピンポンパンポン」という４音のチャイムをならします。

: 音階が上がる（上り４音）チャイム
: 音階が下がる（下り４音）チャイム

音量を調節する

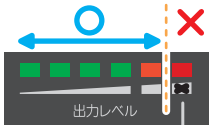
● **音量つまみ**

放送する音の大きさを調節します。
ライン５・６は連動して調節されます。

放送の音量を確認する

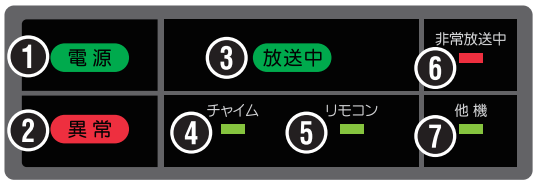
● **出力レベルメーター**

放送中の音の大きさを表します。
赤が点灯している場合は、音が大きすぎます。放送中の音源の音量つまみを下げて、メーターの赤が点灯しないように調節してください。

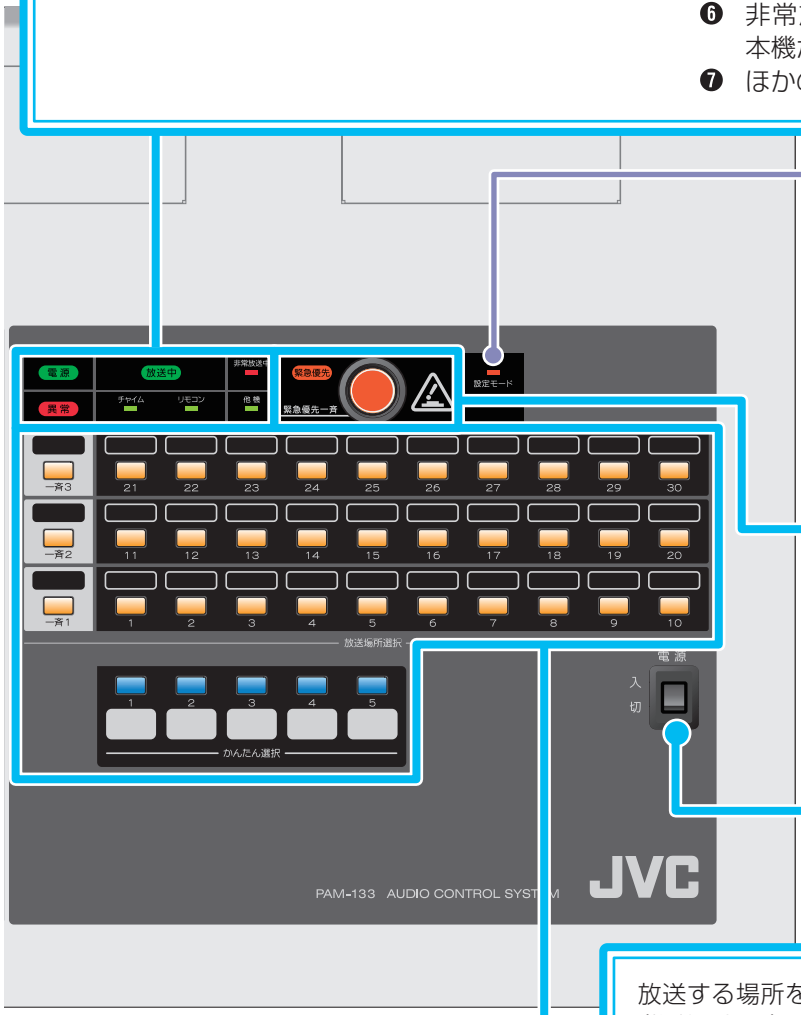


本機の状態、放送の内容を確認する

● 状態表示ランプ



❶ 本機の電源が入っているときに点灯します。
❷ 異常が発生しているときに点灯または点滅します。すぐに電源スイッチを「切」にして、お買い上げ販売店または設置業者にご連絡ください。
❸ 放送中に点灯します。
❹ 報時チャイムをならしているときに点灯します。
❺ リモコンマイクで放送中に点灯します。
❻ 非常放送をしているときに点灯します。このとき、本機からの放送はできません。
❼ ほかの放送設備で放送しているときに点灯します。



本機の設置時に使用します。
通常は消灯しています。点灯している場合は、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

緊急のとき

● ［緊急優先一斉］ボタン

緊急ですべての場所へ同時に放送したいときに使用します。（緊急優先一斉放送）（※）
電源が入っていなくてもおすだけで一斉放送ができます。
緊急優先一斉放送中は、緊急優先ランプが点灯します。
アナウンスマイクは、音量つまみを上げなくても放送できます。（☞ 14ページ）

電源を入れる／切る

● 電源スイッチ

電源の入／切をします。

放送する場所を選ぶ

放送する場所を選びます。選択中の場所はボタンが点灯します（複数選択可）。各ボタンに設定されている場所は、「回線設定シート」（☞ 31 ページ）をご覧ください。

● ［放送場所選択］ボタン

1年教室　ボタンをおした場所に放送します。

● ［一斉 1］、［一斉 2］、［一斉 3］ボタン

それぞれの系統に含まれるすべての放送場所に放送します。（※）

● ［かんたん選択］ボタン

朝礼やそうじのときなど、場面に合わせた放送場所がボタンひとつで選ばれ、放送できます。（※）

放送内容を確認する

● モニタースピーカー音量つまみ

モニタースピーカーの音量を調節します。

● モニター選択表示ランプ

1　このランプが点灯している系統の音声をモニターできます。

● ［モニター選択］ボタン

おすごとにモニターしたい系統が切り換わります。（☞ 18 ページ）

※ ［緊急優先一斉］ボタン、［一斉 1］、［一斉 2］、［一斉 3］ボタン、［かんたん選択］ボタンをおして選ぶことのできる放送場所は、あらかじめ設定されています。放送場所の設定については、お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。

操作の前に

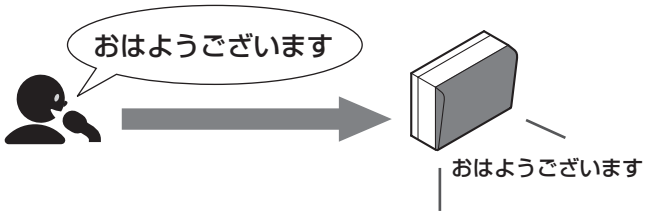
放送の優先順位

本機の放送には、優先順位が設定されています。

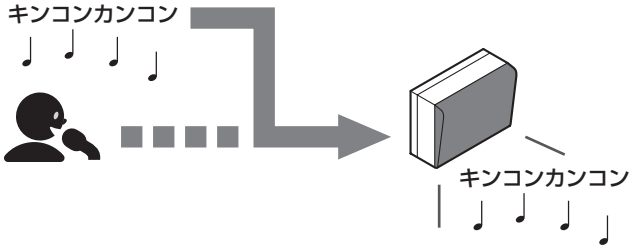
優先順位が上位の放送をしているあいだは、下位の放送は消音されます。

たとえば、本機のアナウンスマイクを使用して放送しているときに報時チャイムがなった場合は、報時チャイムの音声が優先して放送され、アナウンスマイクの音声は放送されません。

通常の放送



報時チャイムがなった場合



メモ

- 優先順位が同じ放送が同時に放送されたときは、音が重なって（ミックスして）放送されます。
- 優先順位が上位と下位の放送を重ねて（ミックスして）放送することもできます。くわしくは、お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。

本機の放送の優先順位

優先順位	放送の種類
第 1 位（最優先）	
第　　位	
第　　位	
第　　位	
第　　位	

※ **設置業者の方へ…**
システム設置状態による放送の優先順位を上表へ記入してください。設置、設定変更により記載内容が変わる場合は、弊社ホームページから取扱説明書をダウンロードしてお使いください。

一斉放送

本機には、ボタンひとつで本機に接続されたすべての場所（スピーカー）を放送場所に選ぶ「一斉放送」機能があります。

一斉放送には、次の 4 種類があります。

● **緊急優先一斉放送（☞ 14 ページ）**
本機のアナウンスマイクやラジオ、チャイム、外部機器の音声メッセージなどを、すべての場所に放送します。
緊急優先一斉放送は、ほかの放送より優先されます。

● **報時チャイム放送**
本機または外部機器（デジタルプログラムチャイム PA-DT600 など）から、報時チャイムをすべての場所に放送します。報時チャイム放送は、外部機器のタイマーで自動的に放送されます。
タイマーやチャイムの音色などの設定については、お買い上げ販売店または本機の設置業者にご相談ください。

● **リモコンマイク一斉放送（☞ 22 ページ）**
本機に接続されたリモートマイクロホン（PA-C50/PA-C51/PA-C52/PA-C53）をリモコンマイクとして使用し、すべての場所へ同時に放送します。
本機の電源が「切」の場合でも、リモコンマイクから放送することができます。

● **本体一斉放送**
本機から、すべての場所に一斉に放送します。
PAM-111/PAM-112/PAM-113 は、［一斉］ボタンによりすべての場所に放送します。
PAM-133 には［一斉 1］、［一斉 2］、［一斉 3］の 3 つのボタンがあり、一斉放送を行う放送系統を選ぶことができます。

ご注意

- **本機の設定により、一斉放送時に放送しない場所をあらかじめ設定できます。校庭など、通常の一斉放送時に放送しない場所をはずすことで、近隣への騒音に配慮した放送ができます。くわしくは、お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。**
- **一斉放送の放送場所は、緊急優先一斉放送を含むすべての一斉放送で共通です。**

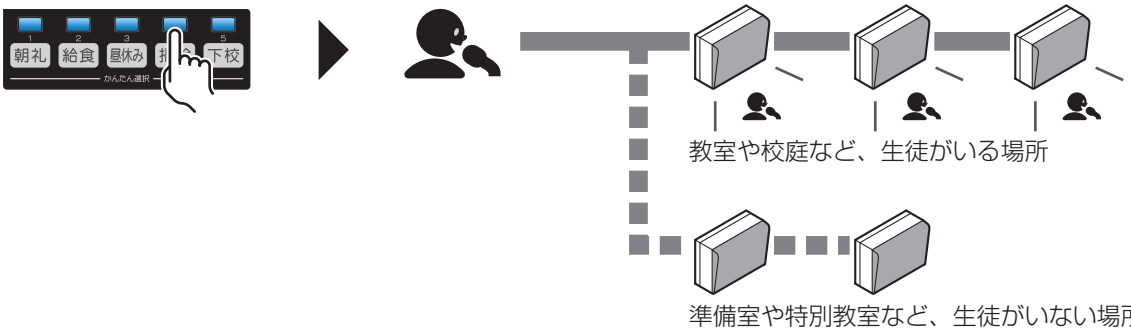
メモ

- 一斉放送時に放送しない場所については、「回線設定シート」（☞ 31 ページ）をご覧ください。
- 本機の設定により、各放送場所に設置されたアッテネーター（音量調節器）を一斉放送時に有効とするかどうかを設定できます。
  有効にすると、アッテネーターで音量が調節できます。
  無効にすると、アッテネーターで音量が調節できなくなります。アッテネーターを OFF にしても音がでます。
- アッテネーターの設定は、「報時チャイム放送」、「リモコンマイク一斉放送」、「本体一斉放送」で個別に設定できます。「緊急優先一斉放送」はアッテネーターが常に無効になります。
  くわしくは、お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。

かんたん選択

「かんたん選択」機能は、朝礼やそうじ、下校時の放送など、用途やシーンに合わせた放送場所をボタンひとつで選ぶことができます。
「かんたん選択」機能には、最大で 5 パターンの放送場所が登録されています。

● **そうじのはじまりや終わりを連絡するとき（4 番に「掃除」が設定されている場合）**

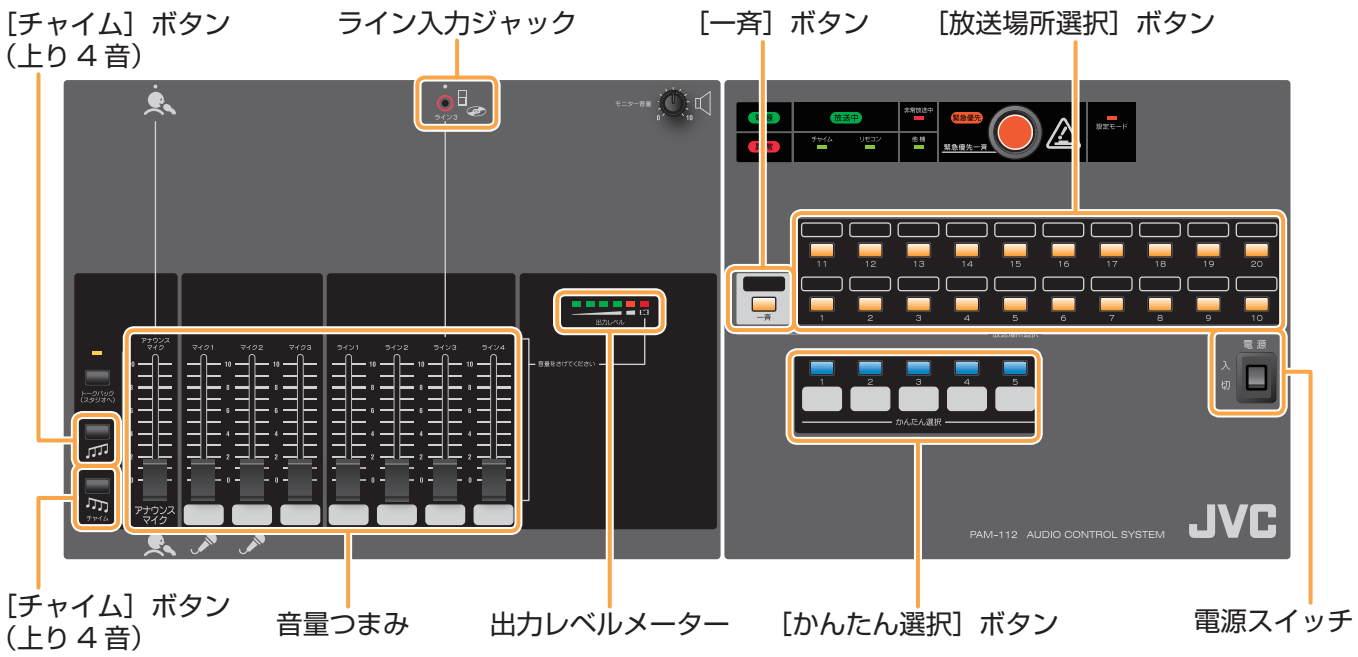


メモ

- ［かんたん選択］ボタンに登録されている放送場所については、「回線設定シート」（☞ 31 ページ）をご覧ください。
- ［かんたん選択］ボタンに登録されている放送場所の変更については、お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。
- ［かんたん選択］ボタンをおしたあとに、［放送場所選択］ボタンで放送場所の追加や削除ができます。ただし、［かんたん選択］ボタンに登録されている放送場所は変更されません。

放送しよう！

基本的な放送のしかた



操作のしかた

1 電源スイッチを「入」にする

2 放送する場所を選ぶ

放送する場所のボタンのランプが点灯します。

［放送場所選択］ボタン：点灯している場所が放送場所に選ばれます。

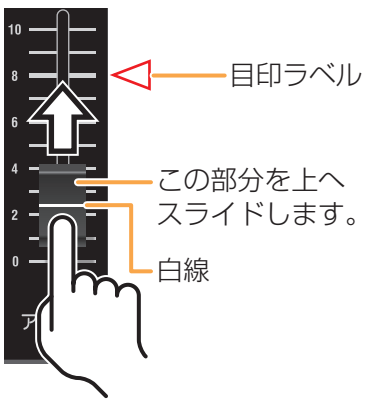
［一斉］ボタン：すべての場所が放送場所に選ばれます。

［かんたん選択］ボタン：朝礼やそうじのときなど、場面に合わせた放送場所が選ばれます。

系統選択ボタン（PAM-133 のみ）：放送する音源の系統を選びます。（☞ 16 ページ）

3 放送したい音源の音量つまみを、目印ラベルのところまで上げる

音量つまみの白線が目印ラベルにあうように上へスライドします。



操作のヒント

- まちがった放送場所のボタンをおしたときは、もう一度ボタンをおします。
- 放送する場所のボタンをひとつもおしていないときは、モニタースピーカーにだけ音をだすことができます。リハーサルにべんりです。
- 機種によって、［一斉］ボタンの数がちがいます。PAM-133 には［一斉 1］、［一斉 2］、［一斉 3］ボタンの３つがあり、一斉放送を行う放送系統を選ぶことができます。

- 音源とは、アナウンスマイク（声）やラジオ、CD プレーヤーなど、音声をだすもととなる機器のことです。
- ラジオを放送するときの音量は、ラジオチューナーの音量つまみで調節します。（☞ 15 ページ）
- ライン入力ジャックに携帯音楽プレーヤーなどをつないで放送するときは、プレーヤー本体の音量も上げる必要があります。
- ２つ以上の音源の音量つまみを上げて、同時に放送することもできます。たとえば、アナウンスマイクと CD1 のつまみを上げると、マイクの音声と CD の音楽が同時に放送されます。

4 マイクに向かって話す
または 音楽を再生する

5 放送が終わったら、音量つまみを下げて、
2 でおしたボタンをもう一度おす

放送する場所のボタンのランプがすべて消えていることを確認してください。

すべての放送が終わったら、電源スイッチを「切」にして、電源を切ります。

- 出力レベルメーターの赤が点灯しているときは、音が大きすぎます。メーターの赤が点灯しないように、音量つまみで調節してください。
- アナウンスマイクで放送する前にチャイムをならすときは、［チャイム］ボタン（上り 4 音）をおします。
- アナウンスマイクでの放送が終わったあとにチャイムをならすときは、［チャイム］ボタン（下り 4 音）をおします。

メモ

- 放送場所を選んだまま（［放送場所選択］ボタンのランプが点灯したまま）の状態で電源を切ると、次に電源を入れたときには、電源を切る前と同じ放送場所が選ばれた状態になります。
PAM-133 の場合は、系統選択ボタンも同様に電源を切る前の状態が選ばれた状態になります。
放送をはじめる前に、放送したい場所、系統が選ばれている状態かどうか確認してください。

■ 放送場所の選びかたについて

［かんたん選択］ボタンで放送場所を選んだあとに、放送場所を加えたり、はずすことができます。

● 放送場所を加える
［かんたん選択］ボタンをおしたあと、放送に加えたい場所の［放送場所選択］ボタンをおします。
このとき、［かんたん選択］ボタンのランプは消えます。

● 放送場所からはずす
［かんたん選択］ボタンをおしたあと、放送からはずしたい場所の［放送場所選択］ボタンをおします。
このとき、［かんたん選択］ボタンのランプは消えます。

● 放送場所をもとにもどす
放送場所を加えたり、はずしたりしたあとに、もう一度［かんたん選択］ボタンをおすと、［かんたん選択］ボタンに設定されている放送場所だけが選ばれている状態にもどります。

メモ

- 放送場所を加えたり、はずしたりしても、［かんたん選択］ボタンに登録されている放送場所は変更されません。
［かんたん選択］ボタンに登録されている放送場所については、「回線設定シート」（☞ 31 ページ）をご覧ください。
- ［一斉］（PAM-133 は［一斉 1］、［一斉 2］、［一斉 3］）ボタンは、放送場所を加えたり、はずしたりすることはできません。

緊急優先一斉放送をする

緊急優先一斉放送は、緊急時にボタンひとつで本機を起動して放送を行うことができます。
本機のアナウンスマイクやラジオ、外部機器の音声メッセージなどが放送できます。
緊急優先一斉放送以外の音源は、すべて放送されなくなりますが、報時チャイムは音を重ねて（ミックスして）放送されます。

メモ

- 本機に接続した外部機器の設定によっては、緊急優先一斉放送時に、外部機器から音声メッセージが自動的に放送されることがあります。くわしくは、お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。
- 本機の設定により、緊急優先一斉放送とほかの放送とを重ねて（ミックスして）放送することもできます。くわしくは、お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。

操作のしかた

1 ［緊急優先一斉］ボタンをおす

本機の電源が「入」になり、［緊急優先］ランプが点灯します。

2 アナウンスマイクに向かって話す
またはラジオの音量を上げる

すべての放送場所に放送されます。

3 放送が終わったら、［緊急優先一斉］ボタンをもう一度おす

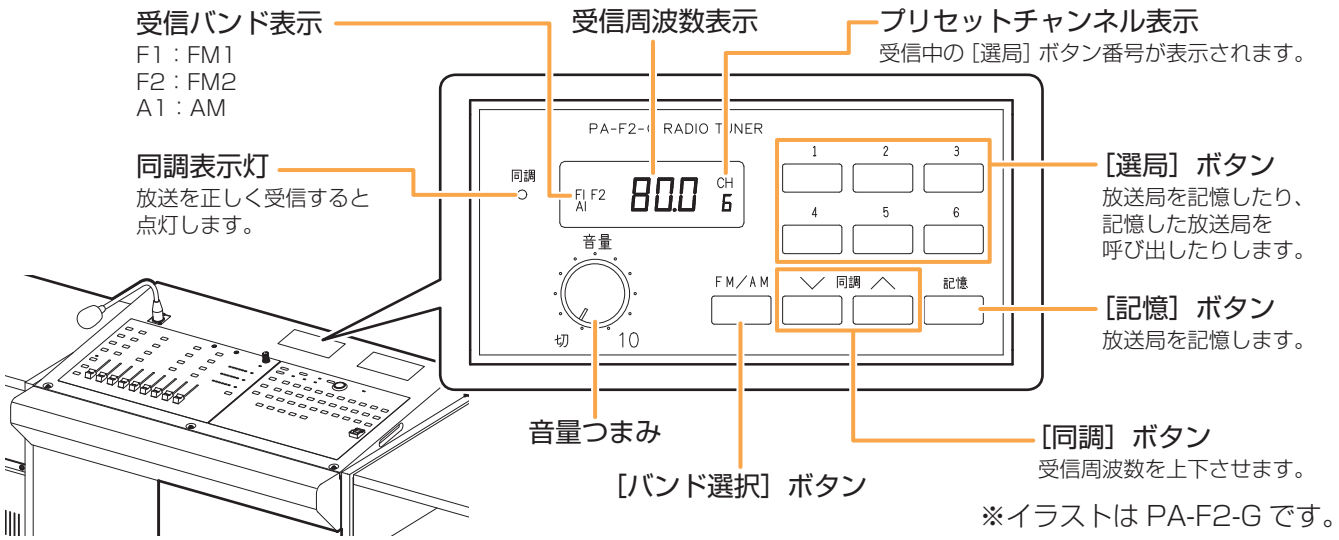
緊急優先一斉放送が解除されます。

操作のヒント

- 本機の電源が「切」の状態でも、［緊急優先一斉］ボタンをおすと電源が入ります。
- アナウンスマイクは、音量つまみを上げなくても放送できます。
- アナウンスマイクとラジオの音声を同時に放送することもできます。

ラジオを放送する

ラジオを放送するには、専用のラジオチューナーを本機に組み込む必要があります。
ラジオチューナーの組み込みについては、お買い上げ販売店にご相談ください。



※イラストは PA-F2-G です。

操作のしかた

1 PAM-100 シリーズの電源スイッチを「入」にする

2 ラジオチューナーの音量つまみを右に回して、電源を入れる

3 バンドを選び、［同調］ボタンまたは［選局］ボタンで放送局を選ぶ

4 PAM-100 シリーズで、放送する場所のボタンをおす

PAM-133 の場合は、放送する系統の系統選択ボタン（ラジオ）をおします。（☞ 16 ページ）

5 必要に応じてラジオチューナーの音量を調節する

6 放送が終わったら、4 でおしたボタンをもう一度おして、ラジオチューナーの音量つまみを左に回す

すべての放送が終わったら、電源スイッチを「切」にして、電源を切ります。

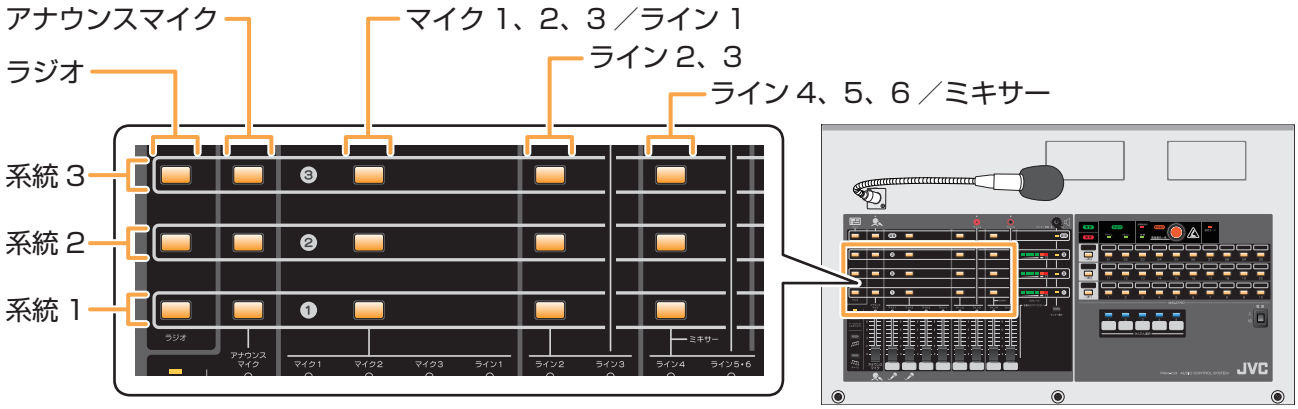
操作のヒント

- ラジオチューナーの音量は、モニタースピーカーで聞こえるくらいの音量にしてください。
- ラジオチューナーは電源が入ってから音がでるまでに時間がかかることがあります。
- ラジオチューナーのくわしい操作や取り扱い方法については、ラジオチューナーに付属の取扱説明書をご覧ください。

- ラジオチューナーは、音量つまみを左に回しきると電源が切れます。

系統を選んで放送する（PAM-133 のみ）

PAM-133 には、3 つの放送系統があります。放送するときは、放送したい音源の系統選択ボタンをおします。
選んだ系統だけに放送することや、それぞれの系統に別々の音源を同時に放送することができます。
系統選択ボタンは、下図のようにならんでいます。

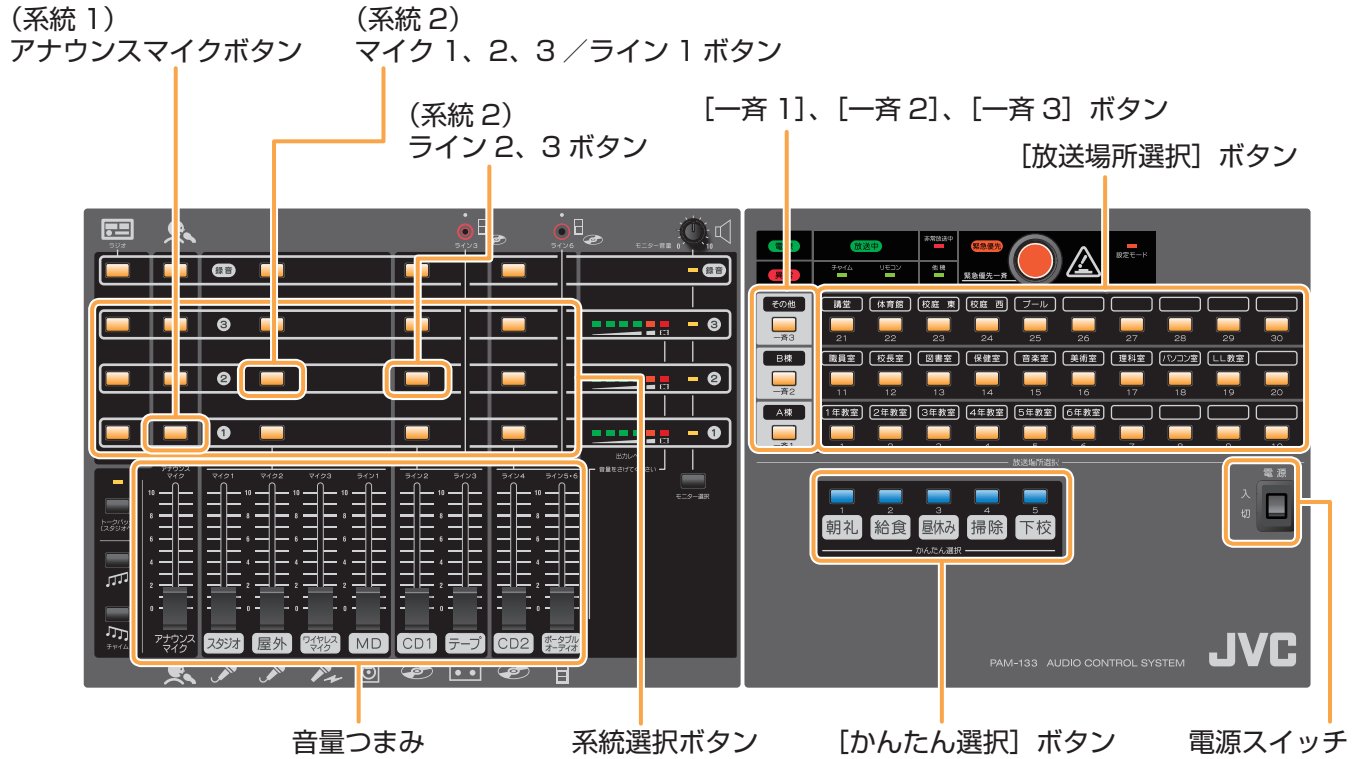


メモ

- PAM-133 を 3 系統で使用する場合、［放送場所選択］ボタンは以下のように設定されています。
  - ［放送場所選択］ボタン 1 ～ 10　：系統 1
  - ［放送場所選択］ボタン 11 ～ 20：系統 2
  - ［放送場所選択］ボタン 21 ～ 30：系統 3
- PAM-133 を 2 系統で使用する場合は、設定が異なることがあります。設定内容については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。
  なお、「回線設定シート」（☞ 31 ページ）に設定内容を記入しておくことをおすすめします。

■ 操作の例

ここでは、系統 1 でアナウンスマイクの音声、系統 2 でライン 2 に接続された CD とマイク 1 の音声を放送する場合の操作を例に説明します。



操作のしかた

1 電源スイッチを「入」にする

2 放送する場所を選ぶ

3 系統 1 を操作する

1）系統 1 のアナウンスマイクボタンをおす

2）アナウンスマイクの音量つまみを目印ラベルのところまで上げる

3）アナウンスマイクに向かって話す

➔ 系統 1 にアナウンスマイクの音声が放送されます。

4 系統 2 を操作する

1）系統 2 のマイク 1、2、3 ／ライン 1 ボタンと、ライン 2、3 ボタンをおす

2）マイク 1、ライン 2 の音量つまみを目印ラベルのところまで上げる

3）マイク 1 に接続したマイクに向かって話し、ライン 2 に接続された CD を再生する。

➔ 系統 2 にマイクと CD の音声が放送されます。

5 放送が終わったら、それぞれの音量つまみを「0」まで下げて、2 でおした放送する場所のボタンと、3 、4 でおした系統選択ボタンをもう一度おす

系統選択ボタンと放送場所のボタンのランプがすべて消えていることを確認してください。

すべての放送が終わったら、電源スイッチを「切」にして、電源を切ります。

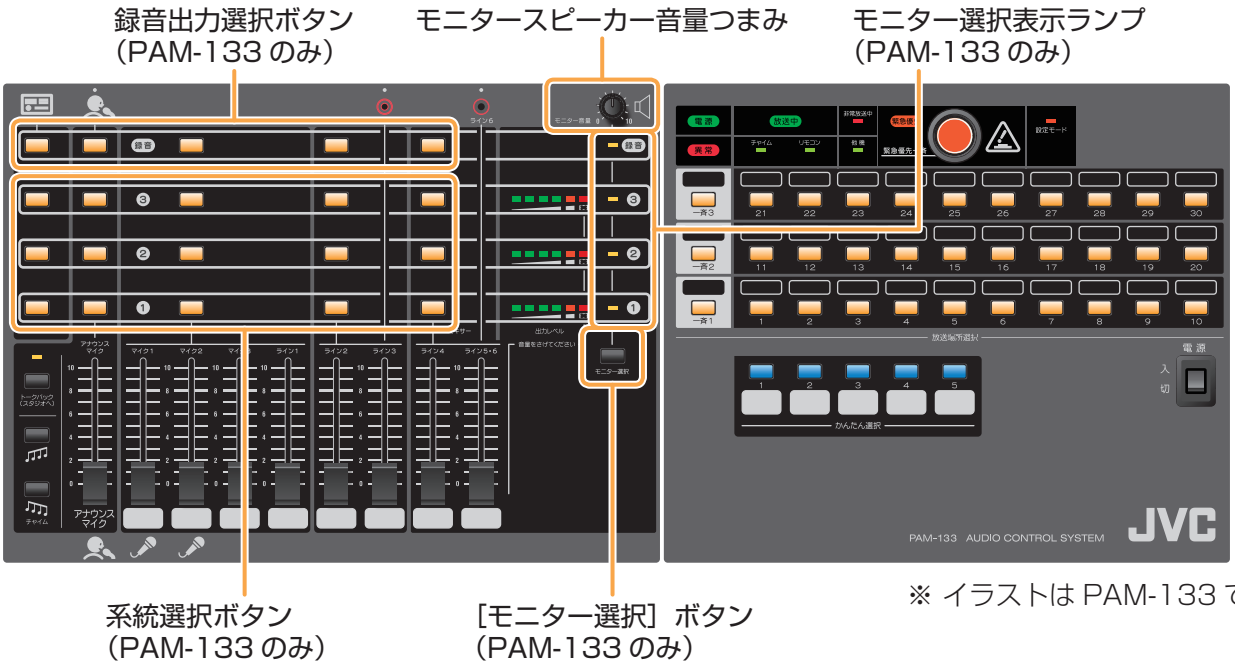
操作のヒント

- ひとつの音源を複数の系統で放送するときは、放送する音源の音量つまみに対応した系統ボタンで、放送したい場所が設定された系統を選びます。
- ひとつの系統に複数の音源の音声を放送するときは、その系統の横にならんだ系統ボタンで音源を選びます。
- ここでは系統 1 と 2 で放送する手順を紹介していますが、系統 3 も同じように操作できます。
- 選んだ系統の系統選択ボタンが点滅している場合、選んでいる系統への放送はできません。系統選択ボタンが点滅しているあいだは、リモコンマイクや報時チャイムなどの放送がされています。
  点灯状態になっていることを確認してから放送してください。

こんなこともできます

放送内容を確認する（モニター）

放送室や調整室にあるモニタースピーカーで、放送前や放送中の音声を確認することができます。



※ イラストは PAM-133 です。

操作のしかた

1 出力レベルメーターが点灯しているときに、モニタースピーカー音量つまみを回す

モニタースピーカーからでる音量を調節します。

操作のヒント

・［放送場所選択］ボタンや［かんたん選択］ボタンなどをおしていないときは、モニタースピーカーにだけ音をだすことができます。放送前の練習や試聴にべんりです。

■ PAM-133 をお使いの場合

1 モニターしたい系統のモニター選択表示ランプが点灯するまで、［モニター選択］ボタンを数回おす

2 出力レベルメーターが点灯しているときに、モニタースピーカー音量つまみを回す

モニタースピーカーからでる音量を調節します。

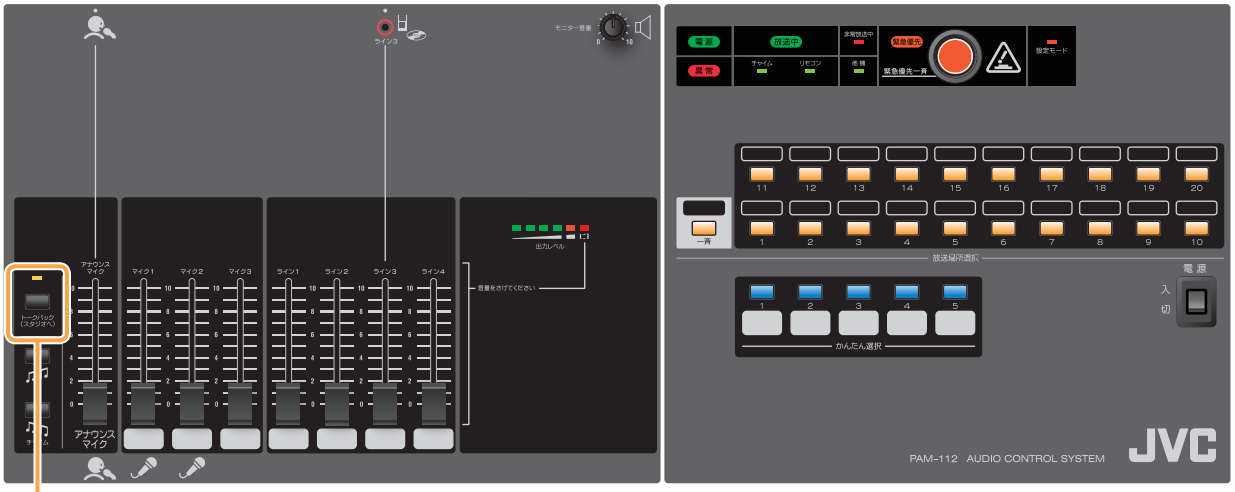
・系統 1 ～ 3 のほか、録音出力の音源もモニターできます。
モニターするときは、必要に応じて系統選択ボタンや録音出力ボタンをおします。

スタジオ内に連絡する（トークバック）

「トークバック」とは、スタジオ内にいる人にアナウンスマイクで連絡や指示をすることです。
スタジオにあるトークバックスピーカー以外へは放送されません。

メモ

- トークバックの音量は、本機の設置時にあらかじめ設定されています。音量の変更は、お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。



［トークバック］ボタン

操作のしかた

1 ［トークバック］ボタンをおしながらアナウンスマイクに向かって話す

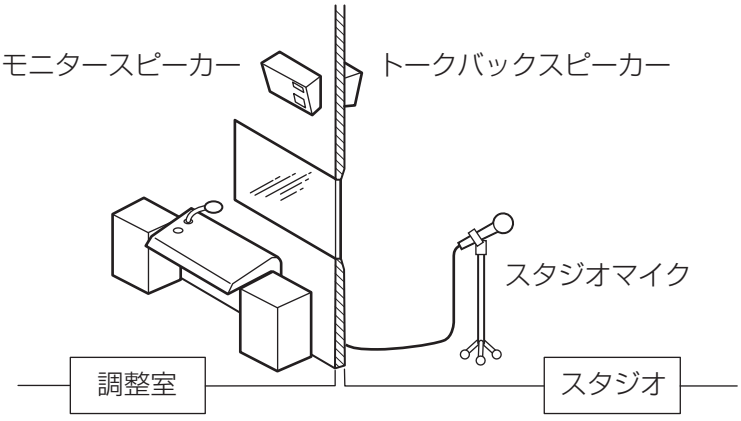
アナウンスマイクからの音声がスタジオ内のトークバックスピーカーから出力されます。

モニタースピーカーの音はでなくなります。

2 話し終わったら、［トークバック］ボタンから指をはなす

操作のヒント

- トークバックの状態は、［トークバック］ボタンをおしているあいだだけ続きます。トークバック中は、ボタンの上のランプが点灯します。
- アナウンスマイクで放送しているときに［トークバック］ボタンをおすと、放送中のスピーカーからはアナウンスマイクの音声がでなくなります。また、４音チャイムの音もでなくなります。

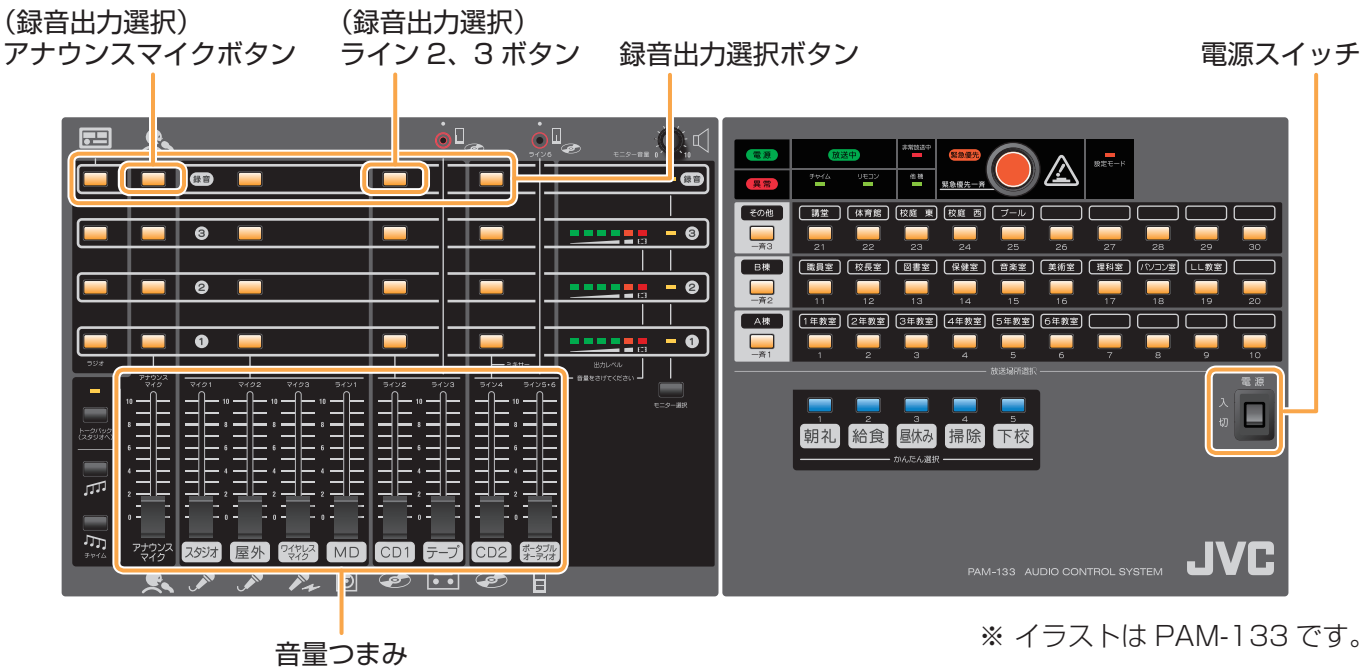


録音する

本機に接続された録音機器に、各入力に接続された音源の音声を録音できます。
ここでは、アナウンスマイクの音声とライン 2 に接続された CD の音声を重ねて録音する場合の操作を例に説明します。

メモ

- 緊急優先一斉放送、報時チャイム、リモコンマイクからの音声は録音できません。
- PAM-111/PAM-112/PAM-113 には、録音出力選択ボタンはありません。音量つまみを上げた音源の音声が録音されます。
- 録音機器の操作方法は、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。



※ イラストは PAM-133 です。

操作のしかた

1. 本機に接続された録音機器で録音の準備をする
2. 電源スイッチを「入」にする
3. (PAM-133 のみ) 録音出力選択ボタンのアナウンスマイクボタンとライン 2、3 ボタンをおす
4. アナウンスマイクとライン 2 の音量つまみを上げる

操作のヒント

- 録音する音源は、複数選ぶことができます。
- 録音出力選択ボタンをもう一度おすと、その音源の録音を解除できます。
- [放送場所選択] ボタンをおすと、録音しながら同時に放送することができます。(PAM-133 の場合は、系統選択ボタンも同様です)
  [放送場所選択] ボタンについては、「放送しよう！」(☞ 12ページ)をご覧ください。
  PAM-133 の系統選択ボタンについては、「系統を選んで放送する (PAM-133 のみ)」(☞ 16ページ)をご覧ください。

5 録音機器で録音をスタートする

6 CD プレーヤーを再生する

CD の音声が録音されます。

7 アナウンスマイクに向かって話す

アナウンスの内容が録音されます。

8 必要に応じて CD プレーヤー、アナウンスマイクの音声を音量つまみで調節する

9 録音が終わったら、録音機器を停止し、音量つまみを「0」まで下げる

放送している場合は、放送場所のボタンをもう一度おします。

（PAM-133 のみ）もう一度［録音出力選択］ボタンをおします。

・録音機器からの音声が再生出力されていると、録音することができません。録音するときは、録音する機器が接続されている入力の音量つまみを下げてください。

リモコンマイクを使う

別売のリモートマイクロホンPA-C50シリーズ(PA-C50/PA-C51/PA-C52/PA-C53)を最大４台まで接続し、リモコンマイクとして使用できます。

リモコンマイクでは、次の操作ができます。

■ 本体から離れたところからでも放送が可能
たとえば、職員室に設置したリモコンマイクから放送するなど、本機のある放送室に行かなくても放送できます。
また、本機の電源スイッチが「切」の場合でもリモコンマイクから放送することができます。

■ ワンタッチで複数の放送場所を選択（リモコンブロック選択）
リモコンマイクの放送場所選択スイッチをおすだけで、あらかじめ設定された複数の放送場所を選択して放送できます。

そのほかのくわしい操作や取り扱い方法については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

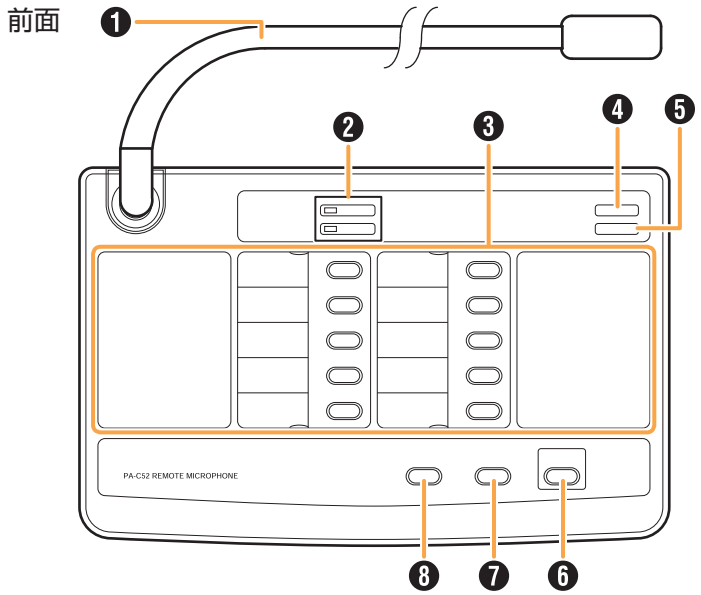
ご注意

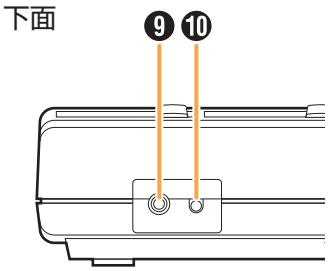
- **放送終了後は必ずリモコンマイクの ❻ 放送スイッチを切り、❹ 放送中表示灯が消灯していることを確認してください。**

メモ

- リモコンマイクを使うためには、本機の設置時にあらかじめ設定が必要です。また、リモコンマイクの機能や放送場所選択スイッチなども、設置時にあらかじめ設定されています。
くわしくは、お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。
- 複数のリモコンマイクで同時に放送すると、音が重なって（ミックスして）放送されます。

● リモートマイクロホン PA-C50 シリーズ（PA-C50/PA-C51/PA-C52/PA-C53）の各部の名称とはたらき





※ イラストは PA-C52 です。

❶ フレキシブルマイク
リモコンマイクからアナウンス放送するときに使います。

❷ 出力レベル表示灯
放送される音のレベルが表示されます。

❸ 放送場所選択スイッチ
放送場所を選びます。
※ PA-C50 にはありません。

❹ 放送中表示灯
❻ 放送スイッチをおすと点灯し、リモコンマイクが使用中であることが表示されます。

❺ 本体使用中表示灯
PAM-100 シリーズが使用されているとき、点灯します。
また、リモコンマイクを使用しているときも点灯します。

❻ 放送スイッチ
放送するときにおします。

❼ チャイムスイッチ
おすと、PAM-100 シリーズの上り 4 音チャイムがなります。
もう一度おすと、下り 4 音チャイムがなります。

❽ 一斉放送スイッチ
一斉放送するときにおします。
※ PA-C50 にはありません。

❾ ライン入力端子（入力レベル：-10 dBs）
CD プレーヤー、カセットデッキなどを接続します。入力端子は 3.5 φステレオミニジャックを使用します。

❿ マイク音量調節部
フレキシブルマイクの音量を調節します。

そのほか

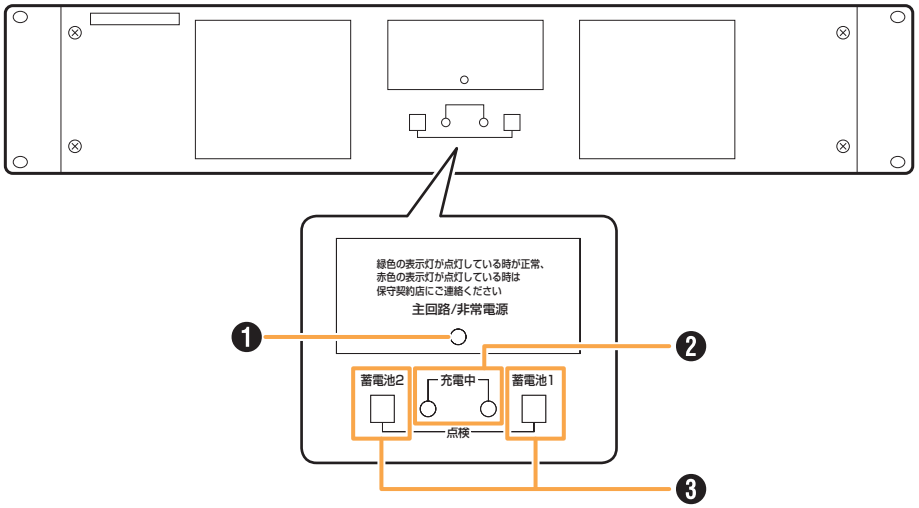
こんなときは

症状	点検・確認項目	処置	参照ページ
アナウンスマイクで放送ができない	本機の電源は入っていますか？	本機の電源スイッチを「入」にしてください。	☞ 7ページ
	音量つまみは適切な位置に上がっていますか？	本機の音量つまみを適切な位置に上げてください。	☞ 6ページ 12ページ
	放送する場所のボタンをおしていますか？	［放送場所選択］ボタンや［かんたん選択］ボタンなど、放送する場所のボタンをおして、放送する場所のボタンが点灯していることを確認してください。	☞ 7ページ 12ページ
	外部機器からのチャイム、リモコンマイク、非常用放送設備から放送していませんか？	本機の状態表示ランプの「非常放送中」や「チャイム」、「リモコン」が点灯しているときは、本機から放送ができません。 ランプが消えてから放送してください。	☞ 7ページ 10ページ
	(PAM-133 のみ) 系統は選択されていますか？	系統選択ボタンをおしてください。	☞ 16ページ
ラジオや CD などの音源が放送できない	(はじめに、「アナウンスマイクで放送できない」の各項目を確認してください。)		—
	各音源機器の電源は入っていますか？	音源機器の電源を入れてください。	—
	再生されていますか？	CD プレーヤーなどの再生ボタンをおして、再生を開始してください。	—
	各音源機器は適切な音量になっていますか？	音源機器の音量を上げてください。 ラジオやライン入力ジャックに接続された機器は、あらかじめ音量を上げておく必要があります。	☞ 15ページ
モニターできない	モニター音量は適切な音量になっていますか？	本機のモニター音量つまみを適切な位置に回してください。	☞ 6ページ 18ページ
	(PAM-133 のみ) モニターする系統を選択していますか？	本機の［モニター選択］ボタンをおして、モニターしたい系統のランプが点灯していることを確認してください。	
	トークバック中ではないですか？	［トークバック］ボタンをおしてスタジオなどにトークバックしているときは、モニタースピーカーから音がでなくなります。	☞ 19ページ
モニタースピーカーでハウリング現象(“キャーン”や“ピーン”という音)が起こる	モニタースピーカーの音量が過度に大きくなっていませんか？	モニタースピーカーからでた音をアナウンスマイクで拾うことで、ハウリング現象が起こります。モニタースピーカー音量つまみを回し、モニタースピーカーの音量を下げてください。	☞ 6ページ 18ページ
録音できない	録音機器の電源は入っていますか？	録音機器の電源を入れてください。	—
	録音は開始されていますか？	録音機器の録音ボタンなどをおして、録音を開始してください。	
	録音できるメディアですか？ また、録音メディアの準備はできていますか？	録音できるメディアを用意してください。 CD や DVD には、フォーマットなど、あらかじめ録音の準備が必要なものがあります。また、録音機器によっては、使用できない種類のディスクがあります。 カセットテープや MD には、すでに録音した内容の上書きを禁止するためのツメやノッチがあります。 くわしくは、お使いの録音機器や録音メディアの取扱説明書をご覧ください。	
異常ランプが点滅している	すぐに本機の電源を切って、お買い上げ販売店または設置業者にご連絡ください。		—
異常ランプが点灯している	音量が大きくなっていませんか？	音量つまみを適切な位置にし、電源を再投入してください。再投入後も点灯している場合は、すぐに本機の電源を切って、お買い上げ販売店または設置業者にご連絡ください。	☞ 26ページ 27ページ

非常用電源ユニット EM-N112 について

停電時に使用する非常用電源ユニットは、日常点検を行い、常に万全の状態を保つようにしてください。

前面



❶ 主回路／非常電源表示灯

AC100V 通電時に AC 電源の状態を、停電時および蓄電池点検時に電池の状態を表示します。

- 正常時：緑
- 異常時：赤

❷ 充電中表示灯（蓄電池 1、蓄電池 2）

蓄電池に充電しているときに点灯します。

❸ 蓄電池点検スイッチ（蓄電池 1、蓄電池 2）

このスイッチを ON にすると ❷ 充電中表示灯が消灯し、❶ 主回路／非常電源表示灯に蓄電池の状態を表示します。

■ EM-N112 の日常点検

停電時に的確に機器が動作するように、日常点検を行なってください。

● 電源の点検について

電源の点検は次のように行なってください。

項目	確認内容	正常	異常
主回路の点検	非常電源ユニットの ❶ 主回路／非常電源表示灯を確認する。	緑色に点灯	赤色に点灯
充電回路の点検	非常電源ユニットの ❷ 充電中表示灯を確認する。	緑色に点灯	消灯
非常用蓄電池の点検	非常電源ユニットの ❸ 蓄電池点検スイッチを 3 秒～ 5 秒間おしつづけ、主回路／非常電源表示灯を確認する。	緑色に点灯	赤色に点灯

メモ

- 異常のときはすみやかにお買い上げ販売店、設置業者、またはお近くのサービス窓口へご連絡ください。
- バッテリーの耐用年数は約 4 年です。これを過ぎると停電時に放送ができないおそれがあるだけでなく、使いつづけると液漏れや発煙などの危険性もあります。

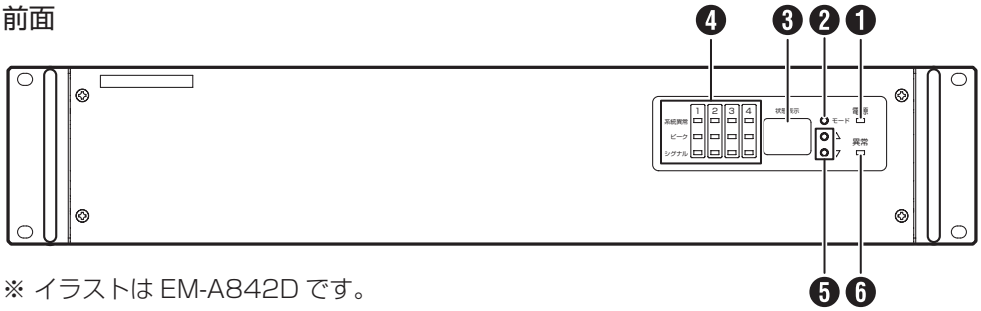
パワーアンプについて

パワーアンプのくわしい操作、取り扱い方法については、機器に付属の取扱設置説明書をご覧ください。

■ デジタルパワーアンプ

● デジタルパワーアンプユニット　EM-A842D/EM-A822D

前面



※ イラストは EM-A842D です。

❶［電源］電源表示灯

電源が入っているとき、緑色に点灯します。

❷［モード］モード切り換えボタン

❸ 状態表示灯の表示内容を切り換えます。

❸［状態表示］状態表示灯（緑、2 桁の文字表示）

- 異常検出時、異常の種類を示す異常コードを表示します。異常コードについては、デジタルパワーアンプユニットに付属の取扱設置説明書をご覧ください。
- 過去の動作履歴、および設定アドレスと内部のソフトウェア情報を表示します。
- 通常は消灯しています。

❹［系統異常、ピーク、シグナル］系統別表示灯（EM-A822D は 1～2、EM-A842D は 1～4）

● 系統異常表示灯

異常を検出した系統（チャンネル）の表示灯が橙色に点灯します。

● ピーク表示灯、シグナル表示灯

各系統の入力信号レベルを表示します。

- ピーク　：定格 +3dB 以上で赤色に点灯
- シグナル　：定格 -30dB 以上で緑色に点灯

また、出力ミューティング時も表示します。

メモ

- ピーク表示灯が点灯する入力レベルの場合は、音が歪んでいます。点灯しないレベルまで下げてください。

❺［▲ / ▼］▲ / ▼ボタン

❷ モード切り換えボタンで、❸ 状態表示灯に動作履歴を表示させた場合、▲ / ▼ボタンで履歴番号を切り換えます。▲で履歴番号が進み、▼で履歴番号がもどります。

❻［異常］異常表示灯

動作中に異常を検出したとき、赤色に点灯します。
点灯したときは、お買い上げ販売店または設置業者にご連絡ください。

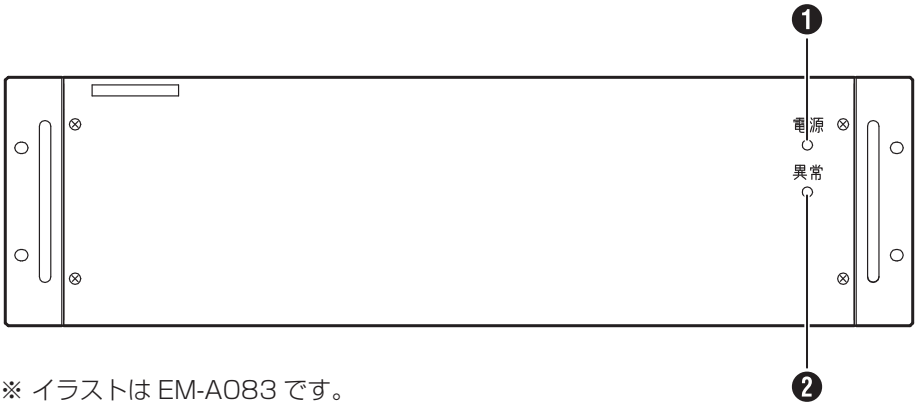
メモ

- パワーアンプの異常が数回発生すると、本機の［異常］ランプが点灯します。

■ アナログパワーアンプ

● アナログパワーアンプユニット　EM-A083/EM-A163

前面



※ イラストは EM-A083 です。

❶ 電源表示灯（緑色）
電源が入ると点灯します。

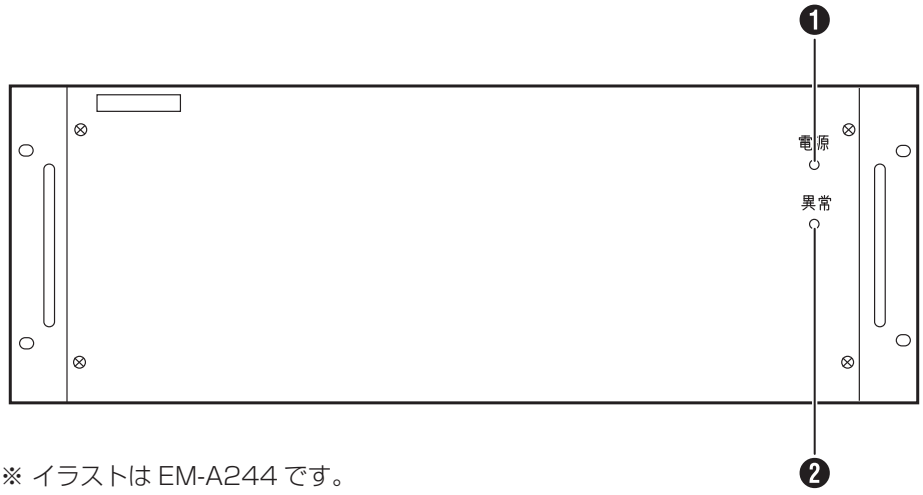
❷ パワーアンプ異常灯（赤色）
過大入力や負荷ショート、発振など、出力が異常な状態になると点灯します。
点灯したときは、お買い上げ販売店または設置業者にご連絡ください。

メモ

- パワーアンプの異常が数回発生すると、本機の［異常］ランプが点灯します。

● アナログパワーアンプユニット　EM-A244/EM-A364

前面



※ イラストは EM-A244 です。

❶ 電源表示灯（緑色）
電源が入ると点灯します。

❷ パワーアンプ異常灯（赤色）
過大入力や負荷ショート、発振など、出力が異常な状態になると点灯します。
点灯したときは、お買い上げ販売店または設置業者にご連絡ください。

メモ

- パワーアンプの異常が数回発生すると、本機の［異常］ランプが点灯します。

保証とアフターサービス

■ 保証書の記載内容ご確認と保存について

この商品には保証書を別途添付しております。

保証書はお買い上げ販売店でお渡ししますので所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

■ 保証期間について

保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。なお、修理保証以外の補償はいたしかねます。

故障その他による営業上の機会損失は補償いたしません。その他詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

■ アフターサービスについてのお問い合わせ先

アフターサービスについてのご不明な点はお買い上げ販売店、または別紙ご相談窓口案内をご覧のうえ、最寄りのご相談窓口にお問い合わせください。

■ 修理を依頼されるときは

お買い上げ販売店、またはご相談窓口に次のことをお知らせください。

品名	：デスク型音響装置
型名	：PAM-111/PAM-112/PAM-113/PAM-133
お買い上げ日	：
故障の状況	：故障の状態をできるだけ具体的に
ご住所	：
お名前	：
電話番号	：

■ 商品廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

仕様

※本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

■ 一般

許容動作温度範囲　：0～40 ℃
許容動作湿度範囲　：30 %～ 80 %（結露なきこと）
電源　：AC 100 V 50 Hz ／ 60 Hz
消費電力　：28 W（PAM-111）
30 W（PAM-112）
34 W（PAM-113）
38 W（PAM-133）
質量　：12.4 kg（PAM-111）
12.6 kg（PAM-112）
12.7 kg（PAM-113）
12.7 kg（PAM-133）
寸法　：700 mm × 500 mm × 177 mm
（幅×奥行き×高さ、本体のみ）

■ 入出力

音声入力：
アナウンスマイク入力：-53 dBs、600 Ω　不平衡
マイク入力 1、2　：-64 dBs、2 k Ω　電子平衡
マイク入力 3　：-64 dBs、2 k Ω　電子平衡
-20 dBs、20 k Ω　電子平衡
（切り換え可）
ライン入力 1、2、4、5：
0 dBs、50 k Ω　不平衡
-10 dBs、15 k Ω　不平衡
（切り換え可）
（ライン入力 5 は PAM-133 のみ）
ライン 3、6（本体パネル上）：
-10 dBs、50k Ω　不平衡
L,R MIX
（ライン入力 6 は PAM-133 のみ）
ミキサー音声入力　：0 dBs、600 Ω　電子平衡
緊急優先音声入力　：-20 dBs、10 k Ω　不平衡
0 dBs、10 k Ω　不平衡
（切り換え可）
報時チャイム音声入力：-20 dBs、10 k Ω　不平衡
リモコン音声入力　：0 dBs、10 k Ω　電子平衡
（最大 4 台接続可能）
ラジオ音声入力　：-16dBs、5 k Ω　不平衡
パワーアンプ入力 1、2、3：
並列接続(PAM-111/PAM-112/PAM-113)
分離（PAM-133）

音声出力：
モニタースピーカー出力：1 W、4 Ω、BTL
（適合スピーカー 4 Ω～8 Ω）
トークバックスピーカー出力：1 W、4 Ω、BTL
（適合スピーカー 4 Ω～8 Ω）
系統出力（1、2、3）：0 dBs
不平衡／電子平衡切り換え可
録音出力　：-10 dBs　不平衡
スピーカー回線出力　：42.2 dBs
1 回線あたり 60 W まで接続可能

AC アウトレット：
非連動アウトレット　：1 口
AC 100 V 最大 1.5 A まで
（通電時 AC 100 V）
連動アウトレット　：6 口
AC 100V 合計 10 A まで
（電源「入」時 AC 100 V
電源「切」時 0 V）

■ 特性

系統出力

周波数特性（1 kHz 基準）：
アナウンスマイク入力　：150 Hz　-4 dB ± 2 dB
15 kHz　-2 dB ± 2 dB
マイク入力 1、2、3　：50 Hz　-2 dB ± 2 dB
15 kHz　0 dB ± 2 dB
ライン入力 1、2、3、4、5、6：
50 Hz ～ 15 kHz　0 dB ± 2 dB
歪率　：1 %以下（1 kHz）
S/N：
アナウンスマイク入力、マイク入力 1、2、3：
50 dB 以上
ライン入力 1 ～ 6　：65 dB 以上
その他（ラジオ含む）：55 dB 以上
トーンコントロール（音質調整）：
低音　100Hz　Max +10dB 以上
Min -10dB 以下
高音　10kHz　Max +10dB 以上
Min -10dB 以下

モニタースピーカー出力／トークバックスピーカー出力

周波数特性　：100 Hz ～ 10 kHz　0 dB ± 2 dB
歪率　：5 %以下
（1 kHz、1W/4 Ω時）
S/N　：55dB 以上

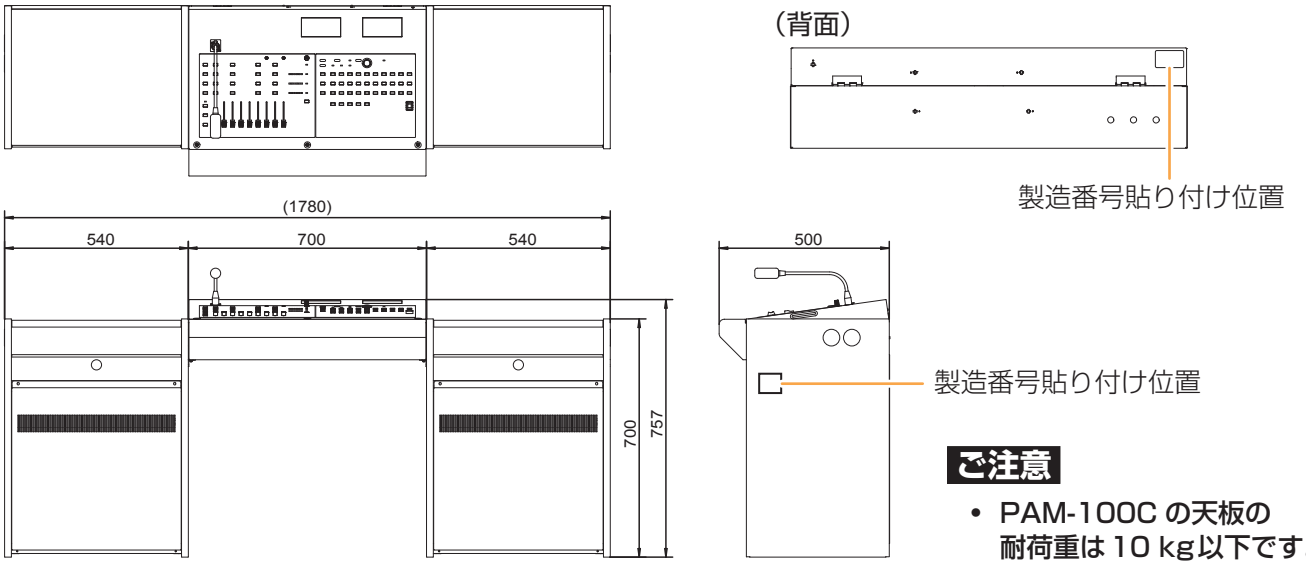
■ 付属品・添付物

安全上のご注意……1
かんたん操作ガイド……1
取扱説明書……1
設置説明書……1
保証書……1
サービス窓口案内……1
マイクロホン……1
フォンプラグ（PAM-111/PAM-112/PAM-113）……1
フォンプラグ（PAM-133）……3
スピーカー回線接続先表示ラベル……1
シール……1
ねじ（M4）……4
（サイドキャビネット（PAM-100C）、
サイドフット（PAM-100F）取り付け用）
通線孔用ブッシング……4
スペーサー……2
（ラジオチューナー取り付け用）
ブッシング……4
（ラジオチューナー取り付け用）

そのほか

■ 外形寸法図（単位：mm）

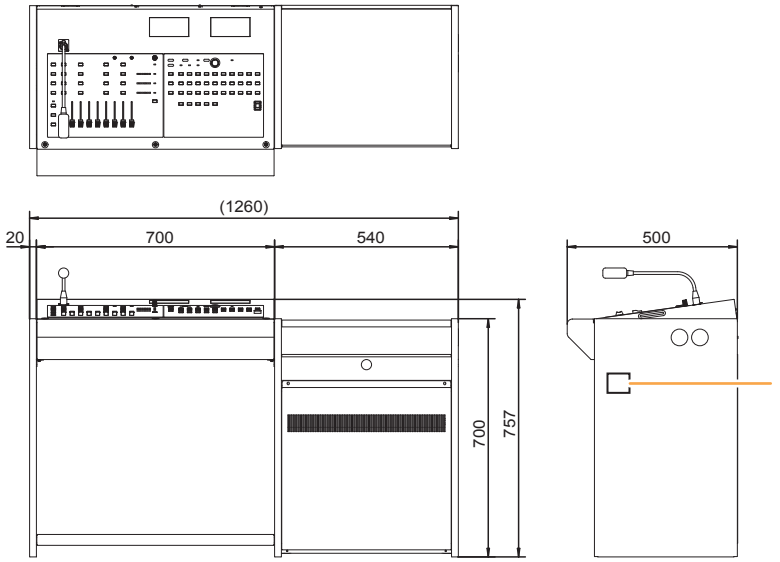
- PAM-100 シリーズ デスク型音響装置 + PAM-100C サイドキャビネット× 2



ご注意

- **PAM-100C の天板の耐荷重は 10 kg以下です。**

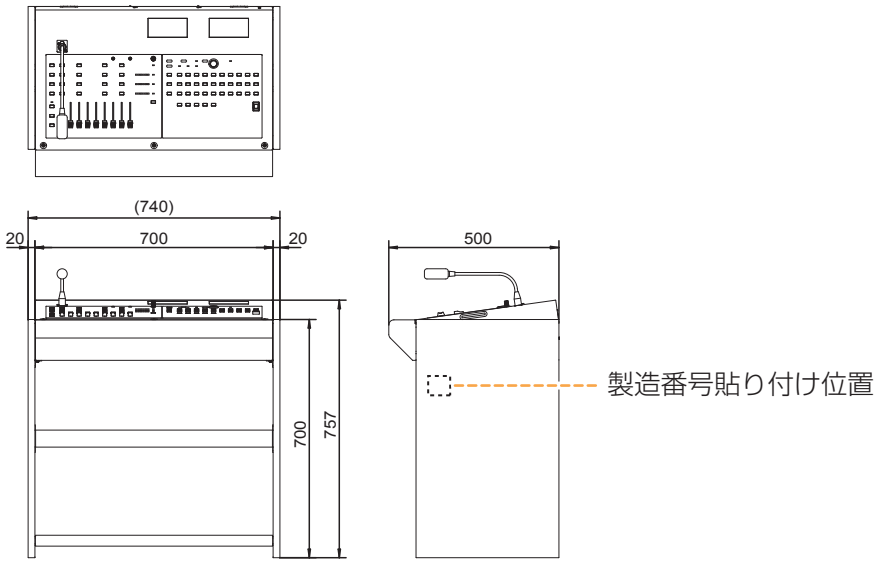
- PAM-100 シリーズ デスク型音響装置 + PAM-100C サイドキャビネット× 1 + PAM-100F サイドフット× 1



ご注意

- **PAM-100C の天板の耐荷重は 10 kg以下です。**

- PAM-100 シリーズ デスク型音響装置 + PAM-100F サイドフット× 2



回線設定シート

本機の［一斉］ボタン、［放送場所選択］ボタン、および［かんたん選択］ボタンに設定された放送場所の一覧です。
設定内容の詳細や変更については、お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。

系統	回線	［放送場所選択］ボタン名称	［一斉］ボタン	［かんたん選択］ボタン				
				1	2	3	4	5
				(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	1							
	2							
	3							
	4							
	5							
	6							
	7							
	8							
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
	29							
	30							

※　弊社ホームページの「ビジネス向け製品サービス」から取扱説明書をダウンロードしてお使いいただくこともできます。

PAM-100 シリーズ　デスク型音響装置　取扱説明書

JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター

0120–2727–87

携帯電話・PHS・一部のIP電話・FAXなどからのご利用は
電話 (045)450-8950［代表］
FAX(045)450-2308
〒221-0022　神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ホームページ　http://www3.jvckenwood.com/

株式会社 JVCケンウッド

〒 221-0022　神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12

© 2012 JVC KENWOOD Corporation

LST1314-001A